

第 7 回基本計画審議会における傍聴者数と意見・感想

◇第 7 回審議会傍聴者数

		傍聴者数
会場	一般	6 人
オンライン	一般	6 人
	区職員	86 人
合計		98 人

※動画視聴回数（3月24日18時時点）：60回

◇傍聴者意見

(傍聴者 A)

全体的に整理されまとまってきているように思います。

とりわけ計画の基本方針の土台となるべき現状認識を明確にしたことで、基本方針も羅列でなく整理されてきたように思います。しかし、現状認識のところに理念や方向性の文言が入っているため、方針の理念などとダブっています。現状認識ももう少し書き込まないと、例えば「ロシアのウクライナ侵攻＝物価高騰」とあまりにもストレートに単純化している。区の現状ももう少し入れて理念等は方針の方向性のところで文章化して示してほしい。

「多様性の認識」も「いまを生きる認識」も大変大事なことで、行政がそれを認識し正面から向きあって歩むことが表現され示されることが、行政の方向性として大変大事だと思います。

(傍聴者 B)

第 6 回で、危機感の認識をしっかり持つことの重要性が議論され、そのことを含め、社会の問題・課題にフォーカスした基本計画大綱（案）に展開されたと感じます。事務局の御努力がよく伝わってきました。

本日の大綱（案）についての議論は、内容に関する深い考慮を含め、読み手の立場での言葉の吟味など、精緻な積み重ねが行われ、密度の高い大綱（案）への道筋をうかがいました。

基本構想に対し、この 10 年間の状況変化を反映した新しい 10 年を展望できるような基本計画に大いに期待したいと思います。

(傍聴者 C)

第 7 回基本計画審議会を傍聴して住民参加・区民参画のひとつのかたちとして「協働」が良く使われているように感じられますが、ボランティア活動が盛んな我が区では比較的容易であると理解しています。しかし、参加や参画の程度等の実質的な関わり方に関しては、これまで大場区政以来唱えられてきたのに実効は上がっていないように思います。

今回、行政評価の中で、住民参加を導入しようとの提案は、「ともに作り」、「参加と協働を基盤とする」の要ともなり得ることで評価されるべきだと思います。これまで、行政評価が区職員の自省であることから、見過ごされてきたこともあるように思います。具体的にどのように進めるかは難しい課題になると思いますが、基本計画では高らかに謳い、実施・行動計画で内容を詰めていくべき課題だと思います。

SDGs や温暖化対策・多様性地域戦略等を評価指標としてどのように織り込んでいくか、一般住民には高すぎる難問ではありますが、専門家も多くいらっしゃるの、若手職員も含んだ混選で議論すれば、可能となっていくと思います。基本計画はあくまで方向を示すものですね。

(傍聴者 D)

専門領域の間では常識で捉えられていることが、分野が違くと理解が難しいということがあり、共通言語を持つ難しさを感じました。専門の方々の様々な専門的なご意見の集約で、一般の人が読み解き、理解するにはとても難しいと思いますが、項目等を整理されて計画を進めるうえで大事なことがわかりやすくなったと思います。

「子ども・若者が参加しやすく、自分たち自身が社会の真ん中にいると自覚できるような」ということであれば、子ども若者にもわかりやすく平易な言葉で表した簡易版の「子ども・若者」向けの世田谷区基本計画があってもいいのかなと思いました。